

千葉市議会 / ICT化推進チーム

ICT化の狙いと 具体的な取組みについて (中間報告)

平成26年2月14日

1-1. 背景（基本理念より）

<抜粋>

- ①「地方自治の主人公である住民から
選挙で選ばれた議員」
- ②「二元代表制の一翼を担う存在として（中略）
住民の負託にこたえる責務を負っている」
- ③「市民への情報発信や市民との情報共有など
市民参加の推進に努める」
- ④「執行機関の政策決定及び事務執行に対する
監視・評価に加え、政策立案、政策提言に
積極的に取り組む」
- ⑤「市議会自らが変わろうとする努力を
引き続き惜しまず」

1-2. 背景（議会と情報化）

◇情報化社会の進展と市民生活

- ・ 情報化社会と呼ばれて久しい
- ・ スマホの普及等、情報技術は日進月歩
- ・ ネットの利用頻度高、生活の一部

◇千葉市役所と情報化

- ・ レガシーシステムの見直しを始め様々な取り組み
- ・ HPのリニューアル、SNSの活用、BPR等々
- ・ オープンデータ・ビッグデータの活用等新たな取り組みも

◇議会はどうか？

- ・ 旧態依然とした典型的な紙文化
- ・ Face to Face、個別の電話・FAX等によって情報伝達
- ・ 情報化とは縁遠い原始的な文化から抜け出せないまま

1-3. 背景 (結論)

情報化の遅れ

市民意識との乖離
(=議会への関心低下)

議論及び意思決定の
遅延にも直結



- 議会における一般世間並みのICT化
 - 各議員の情報リテラシーの向上
- は、議会改革の必須課題！

2. 様々な検討・・・

ペーパーレス

タブレットの配布

スケジュール管理

議場のシステム化

議会事務局・所管課の負担軽減

印刷コスト

Wi-Fi環境の整備

グループウェアの導入

ヘルプデスクの設置

行政情報の入手

CHAINSとの連携

賛否の電子表示

傍聴席に大型モニタ

会議中のネット閲覧

資料閲覧の効率化

資料配布の時間削減

セキュリティ

費用対効果

市民への説明

ネット中継の拡大

電子会議室

議員への情報伝達

審議の効率化

LANの導入

市民への還元？

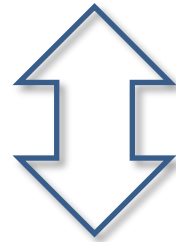
情報格差

逗子市の取り組み・・・

3. 逗子市の取り組みから

◇タブレットの有用性は確認

- ・ 誰でも扱いやすい（最高齢79歳）
- ・ 情報の閲覧、引き出しが容易＝市民への説明時に効力！
- ・ 手軽な情報管理



◇タブレットは万能ではない

- ・ 予算／決算レベルの膨大な資料、A3資料などは紙がベター
- ・ アプリケーションは発展途上
- ・ 「審議の効率性」に若干の疑問

4. アンケート結果

◇9割方パソコンを利用

- ・ 自ら操作：48／54
- ・ インターネット：48／54
- ・ メール：46／54

◇概ね半数がSNS等を利用

- ・ ホームページ：38／54
- ・ ブログ：28／54
- ・ フェイスブック：28／54

◇大方が研修参加意思あり

- ・ 参加希望：17／54
- ・ 内容によって参加：31／54
- ・ 参加予定なし：3／54

5. ICT化の狙い（目的）

- ①必要最低限のインフラ環境の整備
- ②（非効率な）業務運用ルールの見直し

＝一般世間並みにICTを有効活用する



- ③議会全体及び議員の情報リテラシー向上
- ④市民の市政への参加意識の向上

補足

- ◇過剰投資とならないこと
- ◇議員個人で取り組むべきことは盾分けること
- ◇行政側の情報環境に過度に干渉しないこと

6-1. 具体的な取組み（概要）

◇行政情報（資料）に常時アクセス可能な環境を構築

- ・ 議員各自のPC（タブレット含む）から「ID、パスワード」でアクセス可能とする
- ・ 議員への各種情報提供についても、この仕組みを活用する
- ・ 希望者にはタブレット端末を斡旋する



6-2. 具体的な取組み（利点）

◇ “情報力” アップ（＝情報リテラシーの向上）

- ・ 膨大な情報の中から必要な情報が随時閲覧可能＝審議の質向上
- ・ タブレット等モバイル端末の活用により説明応対力向上
- ・ 議員間の情報格差の是正

◇ 業務の効率化

- ・ 事務局、所管課から議員への情報提供業務の効率化
- ・ 一定の紙量の縮減＝資料の管理・整理の手間の省略
- ・ 電子データ活用による資料作成の効率化

◇ 即効性

- ・ 短期間での環境構築が可能
- ・ 難しい研修会は不要
- ・ 比較的安価